

透析療法事典 第2版

中本雅彦, 佐中 孜, 秋澤忠男 編

＜書評者＞ 酒井 糾 (北里大学) 名誉教授

透析療法が腎不全の治療として認知され、40年以上が過ぎようとしている。その間積み上げられた知識と技術が今では治療医学の一角を占めるほどに進化した。オックスフォードの医学辞典によると、20世紀の治療医学で目覚ましい発展を遂げた領域の1つであると評価されていると聞く。わが国の慢性透析患者数も年々増加の一途をたどり、2008年末には28万人を超えた。

透析医療に携わる医療従事者の職種も広がりを見せ、最近では福祉・介護関係の人たちも関与する機会が増えている。治療医学の面からすると、医師のみならず、理工学者の参加、社会学者の参加すらも必要とされる分野として発展を続けている透析療法である。また医療のシステム化、社会化といった流れからすると、それこそ一般業界、行政機関、政府関係者の間にあっても透析医療の意味と価値を知ってもらうことが不可避となりつつある。このように医療界のみならず社会とのつながりの中で展開、発展している領域になっている。こうした医療環境の

中で必要とされるのが正しい知識と技術、その意味と価値を知らしめる情報提供手段ということになる。専門技術として、また総合的解説の両者を兼ね備えた内容として書かれた『透析療法事典 第2版』は、まさしく時宜を得たものである。

わが国の透析医療を含む腎臓学の先頭に立って引っ張っておられる執筆者陣で書かれている本書は、みごとにまでに内容を充実させている。編集にあられた中本雅彦先生、佐中 孜先生、秋澤忠男先生の構想力に敬意を表すとともに、素晴らしい書を世の中に送り出していただいたことに感謝したい。

なぜ、これほど本書に対して感動を覚えたかといえば、21世紀に入ってからの方、医療界は持続可能な成長を期待するにはあまりにも社会環境、経済環境が悪すぎたといわざるを得ないからである。透析療法もこうした影響下にあることは間違いない。それでも“経験と意欲が創造を生み出す”といわれているように、日々の業務に必要とされる技術と知識を身近で支

えてくれる本書の果たす役割は極めて大きい。理論武装だけにとどまらず、意味と価値、特に新たな知見を識り、標準的知識と技術を身に付ける、こうした医療プロフェッショナルに不可避とされるアイテムについてわかりやすく記述してある。

世の習わしとして世代継承は大切であるが、医療、特に透析医療にあっては眼下に迫った現象にもみえる。なぜなら、患者数の増加はまだ止まっていないからである。今後増加率は減少に入るかもしれないが、献身で成り立つ医療を支えるプロフェッショナルの意欲と創造力を持続できるかどうか心配である。そうした世代継承、時代継承にも本書が役立つものと確信している。極めて時宜を得たもので、本書の持つ意味と価値には絶大なものを感じている。本書から得られる知識と技術が、透析療法の広がりや進化に大きく寄与すると確信するとともに、本書が広く活用されることを祈念してやまない。ぜひ座右の書として手元に置いていただけることを期待したい。

●A5 頁592 2009年
定価5,460円
(本体5,200円+税5%)
[ISBN978-4-260-00845-7]
医学書院刊